

Title	増田直衛略歴・主要研究業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2013
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.75 (2013. ) ,p.211- 214
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2012年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000075-0211">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000075-0211</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

- cognitive and affective feedback processing. *CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility*, 5, 73–82.
- Ikkatai, Y., & Watanabe, S. 2011 Reconciliation with pair-bond partner in budgerigar, *Melopsittacus undulatus*. *CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility*, 5, 87–92.
- Kondo, N., Izawa, E., & Watanabe, S. 2011 Voice-face association of group member in *Corvus macro-rhynchus*. *CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility*, 5, 93–100.
- Ojima, S., Nagai, A., Taya, F., Otsu, Y., & Watanabe, S. 2011 Proficient foreign-language users show faster symbol processing. *CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility*, 5, 163–180.
- Pattison, K.F., Zentall, T.R., & Watanabe, S. 2012 Sunk cost: Pigeons (*Columba livia*), too, show bias to complete a task rather than shift to another. *Journal of Comparative Psychology*, 126, 1–9.
- Kondo, N., Izawa, E., & Watanabe, S. 2012 Crows cross-modally recognize group members but not non-group members. *Proceedings of Biological Society*, 279, 1937–1942.
- Watanabe, S. 2012 Distress of mice induces approach behavior but has an aversive property for conspecifics. *Behavioral Processes*, 91, 141–144.
- Inoue, N., Watanabe, S. 2012 Mice recognize the center of an enclosure. *Behavioral Processes*, 91, 141–144.
- Watanabe, S. 2012 Social factors in conditioned place preference with morphine in mice. *Pharmacology, Biochemistry and Behaviour*, 103, 440–443.
- Naoi, N., & Watanabe, S. 2012 Prosody discrimination by songbirds (*Padda oryzivora*). *PLOS ONE*, 7, e47446.

## 増田 直衛 略歴・主要研究業績

### [生年月日]

1947（昭和22）年10月16日

### [学歴]

- 昭和41年03月 山梨県立甲府第一高等学校卒業
- 昭和41年04月 千葉大学文理学部人文科学課程心理学専攻入学
- 昭和45年03月 千葉大学文理学部人文科学課程心理学専攻卒業
- 昭和45年04月 慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程心理学専攻入学
- 昭和47年03月 慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程心理学専攻修了  
文学修士
- 昭和47年04月 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程心理学専攻入学
- 昭和50年03月 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程心理学専攻  
単位取得満期退学
- 昭和50年04月 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻研究生

(昭和51年3月まで)

#### [職歴]

昭和47年04月 千葉大学養護教諭養成所心理学非常勤講師 (昭和51年3月まで)  
 昭和48年10月 千葉県柏児童相談所判定課嘱託 (昭和51年3月まで)  
 昭和49年09月 明治学院大学心理学非常勤講師 (昭和58年3月まで)  
 昭和50年04月 千葉大学教養部心理学非常勤講師 (昭和58年3月まで)  
 昭和51年04月 国際商科大学 (現東京国際大学) 商学部専任講師 (心理学)  
 昭和52年04月 国際商科大学 (現東京国際大学) 教養学部専任講師 (心理学)  
 昭和55年04月 国際商科大学 (現東京国際大学) 教養学部助教授 (心理学)  
 昭和58年04月 慶應義塾大学文学部専任講師 (心理学)  
 平成01年04月 慶應義塾大学文学部助教授 (心理学)  
 平成09年04月 慶應義塾大学文学部教授 (心理学)

#### [学会活動]

昭和45年 日本心理学会会員  
 昭和53年 日本応用心理学会会員  
 昭和57年 日本基礎心理学会会員 平成5年から8年まで同運営委員, 平成14年から平成23年まで同常務理事  
 平成10年 日本アニメーション学会会員  
 平成17年09月 日本心理学会大会準備委員会事務局長 (三田)  
 平成23年12月 日本基礎心理学会第30回大会準備委員会委員長 (日吉)

#### [塾内役職]

昭和60年10月～平成01年09月 大学学生部委員 (日吉支部)  
 平成09年10月～平成11年09月 大学学生総合センター学生部門副部長 (日吉支部)  
 平成11年04月～平成23年09月 大学学生総合センター学生部門学生相談室長  
 平成12年04月～ 大学院社会学研究科委員  
 平成20年10月～平成23年09月 大学院社会学研究科委員長補佐

#### [業績]

##### (研究論文)

- (1) Brightness changes in a complex field with changing illumination: A re-examination of Jameson and Hurvich's study of brightness constancy. *Japanese Psychological Research*, 1971, Vol. 13, 60-69. (with K. Noguchi)
- (2) 自動車の後部信号灯システムの改善に関する基礎研究—色光の進出・後退現象を中心として. 国際交通安全学会誌, 1976, Vol. 2, 13-19. (元木正典, 飯田健夫と共著)
- (3) 注視点の分析手法—Haidinger's brushesを用いた新手法. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学,

- 1988, No. 4, 51-61. (菅野理樹夫, 古崎敬と共著)
- (4) Phenomenal transparency and the other related phenomena. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 1990, No. 6, 68-81. (with T. Kozaki, M. Fukuda, & Y. Nakano).
- (5) ある事件現場の夜間照度の推定方法. 慶應義塾大学法学研究会(編) 教養論叢, 1991, No. 87, 61-70.
- (6) 運動視における現象観察的方法試論. 心理学評論, 1991, 34, 475-496. (山田亘と共著)
- (7) 非感性的完結化 (amodal completion) と異種輪郭の強さ. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 1992, No. 12, 56-66. (古崎敬と共著)
- (8) Amodal completion as another perception of color-spreading stimuli. *Perceptual and Motor Skills*, 1993, 76, 1027-1033. (with W. Yamada, N. Fujita)
- (9) 明るさの分化と図-地の分節. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 1994, No. 15, 81-85. (古崎敬と共著)
- (10) 図-地の分節と層化～江戸手拭い「むさし野」を例として. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 1996, No. 19, 58-62.
- (11) ステレオカインテック現象についての一研究—運動対象の三次元体制化における基準の役割—. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 1998, No. 24, 44-60. (小松英海と共著)
- (12) 主観的輪郭に関する覚書. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 1998, No. 24, 94-96.
- (13) 二次元ディスプレイと三次元空間における知覚特性の比較—衝突時間を指標とした場合—. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 1999, No. 26, 59-69. (曾我重司と共著)
- (14) 生き物に見える運動に関する覚書. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 2000, No. 27, 43-51. (小松英海・古崎敬と共著)
- (15) 運動対象群の体制化についての一研究 (2)—トンネル効果と因果知覚—. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 2001, No. 30, 1-21. (小松英海と共著)
- (16) 動くものの知覚—運動の中に知覚される意図—. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 2002, No. 31, 73-86. (小松英海と共著)
- (17) 盛永の偏位の矛盾再検討—ヘリング図形の場合—. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 2002, No. 32, 93-105. (宇田川真紀雄と共著)
- (18) 共感覚に関する実験的研究—色聴所有者と非所有者の反応の比較—. 慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学, 2003, No. 34, 71-81. (井原晴佳と共著)

#### (単行本)

- (1) 村尾成允・尾形 健・増田直衛(共著) 新心理学. 「知覚」, 「学習」, 「記憶」, 「思考と言語」の各章を担当. 関東出版社, 1979.
- (2) 尾形 健(編) 青年心理学 「文化と社会」の章を担当. 小林出版, 1981.
- (3) 小川 隆(監修) 行動心理ハンドブック. 「知覚の発生・発達 乳幼児知覚の研究法 A.生理的基礎」を担当. 培風館, 1990.
- (4) 国分康孝(編) カウンセリング辞典. 「ゲシュタルト」, 「ゲシュタルト心理学」, 「図と地」, ほかの各項目を担当. 誠信書房, 1990.

- (5) 大山 正・今井省吾・和氣典二(編) 新編 感覚・知覚心理学ハンドブック。「全体野から形の知覚へ」, 「図と地」, 「図の群化」, 「多義図形」, 「形の不変性」の各章を担当. 誠信書房, 1995.
- (6) 中島義明(編) 心理学辞典 「形の恒常」, 「眼灰」, 「ニト」, ほかの各項目を担当. 有斐閣, 1998.
- (7) 野口薫(編) 美と感性の心理学—ゲシュタルト知覚の新しい地平— 「ゲシュタルト知覚の実験現象学的アプローチ」. 富山房インターナショナル, 2007.

(翻訳)

- (1) H.ヘルソン(著) 創造性について考える. 国際交通安全学会誌, 1976, Vol. 2, 39-43.
- (2) G.カニツア(著) 野口 薫(監訳) 視覚の文法—知覚の体制化における規則性の役割. 「明るさの対比」, 「知覚される面の縮小と拡大」の各章を担当. サイエンス社, 1985.

(その他)

- (1) 野口薫・増田直衛(共著) ふしぎな本 さっかく. 講談社カラー科学大図鑑D-2, 1980.
- (2) Topics アニメーションの心理学(横田正夫と共著). 心理学ワールド, 2002, 19号, 21.

おおつゆきお  
大津由紀雄

略歴・主要研究業績

[学歴]

- 1963年3月 立教中学校卒業
- 1966年3月 立教高等学校卒業
- 1966年4月 立教大学経済学部経済学科入学
- 1970年3月 立教大学経済学部経済学科卒業
- 1970年4月 東京教育大学文学部文学科英語学英文学専攻学士編入
- 1972年3月 東京教育大学文学部文学科英語学英文学専攻卒業
- 1972年4月 東京教育大学文学部聴講生(1973年3月まで)
- 1973年4月 東京教育大学大学院文学研究科修士課程英文学専攻入学
- 1975年3月 東京教育大学大学院文学研究科修士課程英文学専攻修了
- 1977年9月 米国マサチューセッツ工科大学(MIT)大学院  
言語学・哲学研究科博士課程入学
- 1981年6月 米国マサチューセッツ工科大学(MIT)大学院  
言語学・哲学研究科博士課程修了, Ph.D.取得

[職歴]

- 1975年4月 和光大学人文学部文学科専任講師
- 1980年3月 和光大学退職
- 1981年6月 東京学芸大学教育学部助教授
- 1987年3月 東京学芸大学退職